



TITLE:

表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙ほか. 天界 1943, 23(261)

ISSUE DATE:

1943-02-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168575>

RIGHT:

天 界

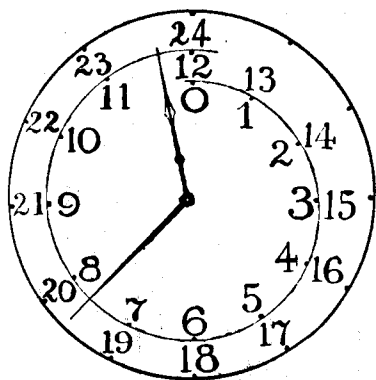
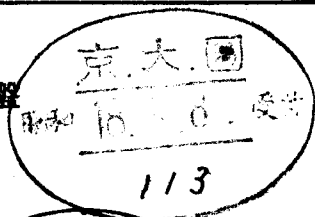
(第 23 卷)

第 2 6 1 號

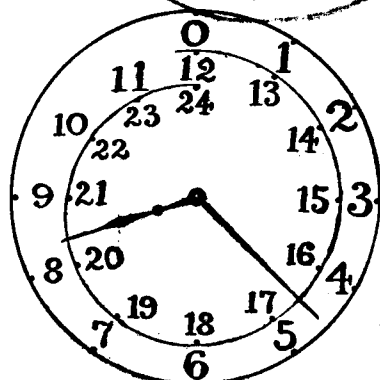
昭和18年 第3號

24時制の時計の文字盤

應募案 No. 6



(本誌第二二頁を見られよ)



1943年

三月の天象

Heavens of March.

金星は太陽より東へ約2時間で、日没後の西の空に可なり良く見えるやうになった。視直径11", 輝面率は90%で、地球からは太陽と同じくらゐ離れてゐる。

木星も**土星**も日没直後の天頂に都合良く見えるやうになつて來た。何れも地球からの距離は多少遠くなつたけれど、視直径は充分あるし、衛星の隠顯や、輪の大きい開展の有様など見るには宜しいし、殊に、望遠鏡によつて、これ等の巨大な遊星の姿を初めての人に見せるには、最も好時期である。——いつも言ふことだが、土星輪が微光星を掩蔽するやうなことを見つけたら、見逃さず、よくよく観測すること。

天王星も**海王星**も、天上の位置は観測に好い。年鑑の中の圖をたよりとして搜せば、すぐ見つかる。**冥王星**も蟹座であるが、之は大望遠鏡が必要である。

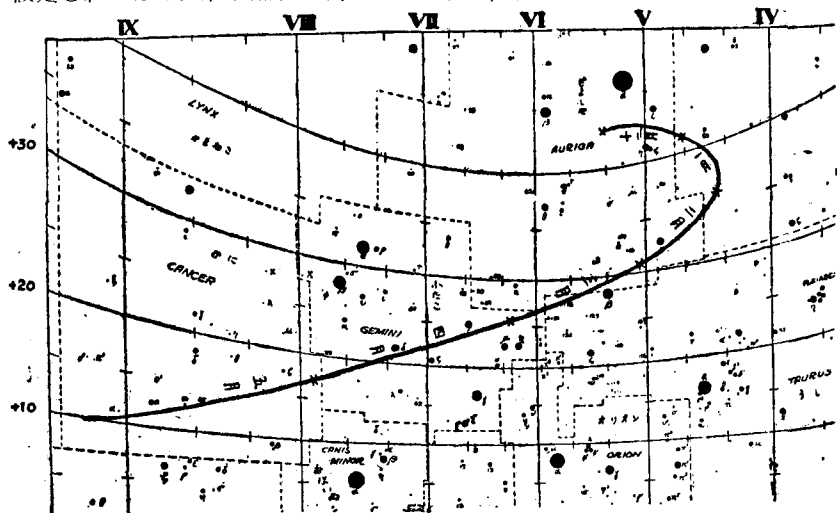
太陽は南極を地球へ一ぱいに向けたまゝ、北極を西へ21°以上傾けてゐる。6日は春分、21日は春分、其の21時03分(日本時)に赤道を横切つて北上する。

月は6日が新月、14日が上弦、22日が満月、29日が下弦。

この月の中、**水星**と**火星**とは、共に、地球から遠くて、観るのに不適當である。

黄道光は宵の西天に立派に見える時期であるが、月光の妨げがあるため、中旬は観測がしにくいだらう。但し、南方の各地では、暁天にも見える筈。

ホイブル彗星は未だ見えてゐる。**ネウイミン彗星**は漸次近づいて來る。下圖はネウイミン氏の豫報に基いて畫いたものであるが、近日點通過は四月末と假定されてゐる。若し之れが誤まつてゐれば、圖の線より多少は外れる。



會員に關する報告

(17-12-31締切)

【入會】

塚本 望(岸和田)
灘波 寛次(岡山)
堀田 和作(東京)
矢野 七郎(大津)

【觀測部入部】

木村 旭志(岡山)

濱田 英男(東京)
竹中 邦夫(東京)
米本 明(山口)
上野 千勝(東京)
森 涼(札幌)
蘆田 一吉(宮崎)

豊田 博信(東京)
高橋 宏平(前橋)
藤原 廣武(大阪)
恒岡美和(名古屋)
蘆原 司郎(京都)
米本 明(山口)

新居敏信(和歌山)
新保 博(東京)
高橋 一清(桐生)
西尾 實(宮崎)
豊田 忠一(栃木)
吉池 浩暢(長野)

昭和18年分會費部費領收者芳名

會 費 (年額)	濱田 英男(東京)	平林 忠(東京)	× 矢萩 和己(東京)
塚本 望(岸和田)	鈴木 緒一(東京)	× 浦田 正富(平壤)	× 瀧田 正俊(銚子)
高崎 毅(東京)	小林 義生(東京)	× 吉井 章五(廣島)	三好 敏實(東京)
× 浅川 澄(東京)	橋本 卓(東京)	竹中 邦夫(東京)	近藤 芳一(徳島)
鈴木 俊郎(大阪)	炭谷 恵副(坂出)	× 保積善太郎(東京)	× 松本 武男(彰化)
× 柳 松太郎(京都)	× 小山泰三郎(東京)	× 川人 武正(香川)	高橋 一清(桐生)
× 福井 茂一(満洲)	× 伊達英太郎(兵庫)	村越 美恵(満洲)	渡邊孝四郎(東京)
新保 博(八王子)	× 加藤 重成(濱松)	灘波 寛次(岡山)	× 東日天文館(東京)
× 美田 爲三(神戸)	× 比企 能大(西宮)	梶谷 信(東京)	佐藤 八郎(神戸)
砂川 一平(東京)	× 神田 壹雄(神戸)	× 田代 義光(東京)	× 山本 敏文(奈良)
遠山 孝子(東京)	× 福永 嘉彦(徳島)	× 山下 政一(大阪)	× 佐藤 晃(東京)
山口 疆(東京)	清家 美材(廣島)	大神喜八郎(福岡)	× 森 隆(四日市)
藤原 廣武(大阪)	大塚 幸雄(神奈川)	× 石黒 彦治(東京)	池田 一幸(熊本)
× 中川登代雄(東京)	濱岡 尊(松江)	× 中村十三男(松本)	林 清一(東京)
廣田 元是(東京)	× 中野 敏男(富山)	× 丸山 豊樹(東京)	柴田 孝生(東京)
× 青井秀生(名古屋)	× 森安 千秋(濱田)	× 米本 明(山口)	木内 傳(東京)
松原 春樹(東京)	× 來田 晃(大阪)	木村 倉太(岡山)	× 中島 盛行(大阪)
松山 基範(京都)	山雄 重明(京都)	前田徳次郎(大阪)	河路甲午郎(津)
須山 正躬(東京)	矢野 七郎(大津)	松代安太郎(蘆屋)	高辻奈良造(京都)
村澤 藤作(金澤)	宮崎 幸一(東京)	× 渡部 栗(東京)	× 水池 敦(東京)
× 菊地 弘(東京)	北川政藏(北海道)	× 内藤 一男(群馬)	近藤福之助(京都)
× 植田 耕作(大阪)	× 正田 源一(大阪)	高橋左右平(東京)	吉野 辰巳(長崎)
平林 明郎(東京)	大内 忠藏(小倉)	小林 祥三(大阪)	細野 貞(新潟)
中條 延行(東京)	小川 美彦(東京)	松田 範房(東京)	鈴木 茂男(東京)
恒岡美和(名古屋)	香掛 七二(長野)	關 春雄(群馬)	村山 定男(東京)
武 盛一(徳島)	蘆原 司郎(京都)	三宅 文四(岡山)	× 森 淳(札幌)
× 寺田 博(大阪)	浅野 俊雄(東京)	× 西川 英男(大阪)	岸本 敏治(奈良)
北條 眞次(京都)	安井 弘治(京都)	× 秋澤昭二郎(高知)	× 岸本 恒夫(大阪)
× 木村 旭志(岡山)	村田 旭(山口)	× 印は部費(年額)を含む。	
會 費 (一部)	豊田 博信(東京)	古市 茂(津)	長岡 章(岡山)
小山 丑松(新潟)	豊田 忠一(栃木)	中島 信一(札幌)	西尾 實(宮崎)
宮澤 堂(京都)	中島 信之(福井)	影山 辰男(横濱)	
部 費 (年額)	蘆田 一吉(宮崎)	北見 彰久(大阪)	小槇孝二郎(和歌山)
中澤 登(長野)	三谷 哲康(大阪)	七高天文部(鹿児島)	
部 費 (一部)	小山 丑松(新潟)		

昭和17年分會費部費領收者芳名

會 費 (年額)		高城 武夫(大阪)	山口 疆(東京)	李 源 詰(京城)
影山 辰男(横濱)	濱田 英男(東京)	新井敏信(和歌山)	瓜生 和雄(東京)	
會 費 (一部)		高城 武夫(大阪)	李 源 詰(京城)	
高橋 宏平(前橋)				
部 費 (年額)				

本 二 號 要 目

コペルニクの小傳 (1)	山 本 一 清	77
反射望遠鏡に依る太陽黒點寫眞術 (1)	伊 達 英 太 郎	83
ツキキ氏の新星について〔紀要81〕	山 本 一 清	87
黒點計算の新法實例	大 石 辰 次	90
星 座 と 星 名 (1)	山 本 一 清	94
曆をかいた三島茶碗の記	川 添 康 次	99
最近年の彗星の一覽表〔紀要82〕	山 本 進	102
月による火星の掩蔽の觀測報告〔紀要83〕	山 本 一 清	105
24時制時計面 No. 6	表紙①	
三月の天象	表紙②	
觀測部月報		108
24時制の懺み		101
	掩蔽觀測報告(田上報告 3)	107
	會員よりのたより	112
	天界正誤表	86

廣

告

豫 約 製 作

“カンコー”天體用反射鏡面

型式：ニュートン式，カセグレン式

鏡徑：8 釐，10 釐，15 釐，20 釐

詳細は御照會下さい。

アルミニウム鍍金

天 體 用 反 射 鏡

鍍金品目：レフ式カメラ反射鏡

理化學器械用反射鏡

其他御需めに應ず。

反射望遠寫眞鏡“カンコー”製作元

京都市東山區山科町御陵
電 話 山 科 5 7 番

關西光學研究所

天 界 第 2 6 1 號

昭和18年1月28日印刷
昭和18年2月1日發行

Ⓔ〔定價金40錢〕 送料金1錢

編輯兼發行所 滋賀縣滋賀郡真野村大字真野513

印刷所 京都市上京區上樺木町千本東入

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地

{ 東亞天文協會 (振替大阪56765)
(代表者山本一清)
日本出版文化協會第2種會員(第220038番)

眞美印刷所 橋本岩太郎〔電西陣3702〕

日 本 出 版 配 給 株 式 會 社